



だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831
E-mail noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>

海外派遣研修 (オーストラリア)



CONTENTS

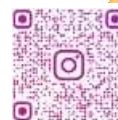
- 1 海外派遣研修の実施
- 2 各専攻トピックス
- 3 農業技術研修等の修了
- 4 トピックス
農業高校との連携研修
第5回進路セミナーの開催
職場研修の実施
全国農大プロジェクト発表会入賞
ヤンマー懸賞論文入賞
卒業予定の2年生が県庁を表敬訪問
生産高度化研修(ジネンジョ)の開催

愛知県立農業大学校
公式HP



SNS

Instagram



Twitter



オーストラリアでの「海外派遣研修」



2023. 1. 22 中部国際空港セントレア

令和5年1月22日（日）から1月29日（日）までの7泊8日、新型コロナウイルス感染症の拡大により、見送られてきた海外派遣研修を3年ぶりに実施することができました。

学生達は真夏のオーストラリアで農業事情を学び、言葉の壁を乗り越えながら、ホストファミリーとの絆を深めることができました。

参加した2年生66名は、異なる文化や生活習慣に戸惑いつつも、日本では得られない文化や体験を享受できたことは一生の思い出になったと思います。この経験を卒業後の進路で活かしてくれることを期待しています。

【1月22日（日）中部国際空港→シンガポール経由（チャンギ空港）→シドニー国際空港】

シンガポール・チャンギ空港では、乗継ゲート確認後、空港内での食事や買い物をして過ごしました。



【1月23日（月）ポーラル ファームステイ開始式、ホストファミリーとの対面】

シドニー空港到着後、各農家で農業体験をするために、ニューサウスウェールズ州のポーラルに向かいました。

鷹羽校長が英語で挨拶を行い、いよいよホストファミリーとの対面です。

皆さんとてもフレンドリーでした。学生も大きな声で挨拶するなど、一生懸命にコミュニケーションをとりながら各ファームステイへと出発していきました。



【1月24日（火）～26日（木）ポーラル 各ファームで滞在】

ファーム滞在中は農作業だけでなく、食事や余暇を一緒に楽しむこと、周辺農家等の見学、カンガルー等の野生動物を観察する機会もありました。短期間で体験するプログラムがとても充実していました。



ホストファミリーは、農畜産物に対する学生の飼養・栽培管理の手際良さ、汗をかくことや汚れることを厭わない姿を称賛していました。



【1月26日（木）ポーラル お世話になったホストファミリーとのお別れ】

家族の一員として過ごした時間はあっという間に過ぎてしまいました。
ホストファミリーの方から「一期一会」という言葉が好きだと言われました。学生は一生に一度限りの機会を大切にしてくれると思います。



【1月27日（金）～28日（土）シドニー】

シドニーでは農業事情の視察や、現地学生ガイドによる市内見学を行いました。



フレミントン市場視察



現地大学生による市内見学



ダーリンハーバーで記念撮影

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！



露地野菜

夏に向けての準備進む！堆肥で土づくり

春夏作に向けて、ほ場に堆肥を散布し土づくりをしました。フロントローダーと運搬車で堆肥を運搬し、スコップで25aのほ場に均一に堆肥を撒きました。1年生全員で協力して行ったので順調に散布を終え、大変な作業でしたが達成感がある様子でした。農大のほ場は水はけが悪く、雨の後に乾くとカチカチの土になってしまうので、少しでも土壌が改良されることを期待します。土づくりの効果で夏には美味しい野菜が収穫できる予定です。



施設野菜

GAP への取り組みは工具整理から！

多くのハウスを管理する施設野菜専攻には、修理に必要な工具がたくさんあります。しかし、いつもごちゃごちゃで必要な工具が見当たらない。そんな中、1年生のGAP係が工具ボードを作りました！これでどこに何があるか、何を紛失しているのかが一目瞭然です。これからもGAP手法を用いて専攻内の整理・整頓を進めていきます。



作物

レーザーレベラーでほ場を均平に！

次作の準備としてレーザーレベラーでの整地作業が始まりました。レーザーレベラーとは、自動制御によりほ場を均平にする農業機械で、代掻き作業の効率が良い、高度な水管理が可能となります。農機メーカー協力の元、使い方の説明と実演を行いました。今後は、次作の作付けに向けて、レーザーレベラーを使ってほ場準備を進めていきます。





2月と言えば「フラワーバレンタイン」です



本校でも毎年この行事に乗っかり、実習販売で少し特別な商品を企画・販売しています。今年は、1年生の発案で、プレゼント用のミニブーケを用意してみました。

このような企画ものは、事前にどれだけ告知できたかが売り上げに係わってくるので、1年男子を中心にPRを頑張ってもらいました。

また、ブーケ作成時も、自分の作ったものを選んでもらえるよう、できるだけ良いものを作ろうと努力する姿勢が見られました。

さて結果は…。用意した8束すべて完売！頑張った甲斐がありました。



芽がどんどん出てきました！Part2

写真はシクラメンの芽です！

12月に種をまき、1月に芽がでて、2月にやっと葉っぱがひらいてきました。

そこで、栄養補給です。去年、小さいうちからしっかり肥料をあげたら、大きく育ったので、今年はしっかりあげることにしました。今は窒素 50ppm の液肥をあげています。左側は、2週間前に液肥をあげたら急に葉っぱが大きくなりました。右側にもあげることにしました。

今年の農大祭、期待しておいてください。



プロジェクトの成果を披露！卒論発表会開催♪

果樹専攻では、2月8日に卒論発表会を開催しました。2年生12名がパワーポイントを用いて発表を行い、実習等で取り組んだプロジェクトの成果を披露しました。内容は、ミカンやブドウの着色向上対策、イチジクの作業分散技術の検証、ナシの花芽着生向上対策等、多岐に渡りました。

聴講していた1年生は、積極的に質問をして、熱心に発表を聞いていたことが見て取れました。質問内容からも、次の農大果樹園の経営者として前向きに取り組む姿勢が感じられ、とても有意義な発表会となりました♪





TMR ミキサーが新しくなりました

1月に新しいTMRミキサーが導入されました。TMRとは、牧草や配合飼料、ビタミン、ミネラルなどを混ぜ、必要な栄養を全て取れるよう調整したもので、農大では1日1頭あたり60kgほど作って給与しています。

新しいミキサーになり、給与量を増やすなど、これまで出来なかったこともできるようになりました。大事に使っていきます。



ワクチンの理解を深めました

「農大におけるワクチンプログラムと疾病浸潤状況について」の講義を聴きました

1月30日、中央家畜保健衛生所の方を講師としてお招きし、ワクチンの種類及び取り扱い上の注意点、感染症の症状及び農大の抗体検査結果等について、1年生、2年生にパワーポイントでわかりやすく講義をしていただきました。農大の抗体検査を踏まえての講義で、ワクチンの理解がより深まりました。



来年度に向けてお引越し

2年生はついに2年間の学校生活を終えて退寮して行きました。実家や新居に引越しをするためドタバタ騒がしくもありました。

一方で、秋生まれのヒナたちも大きくなり、大人用の鶏舎へお引越しです。飼料価格の高騰や鳥インフルエンザ、物価高もあり、相変わらず卵価が高い状態が続いております。引越した鶏たちも早く卵を産み始めて、お客様にご提供できればと思っております。

直売にいらっしゃるお客様には十分な数の卵をご提供できず申し訳ありませんが、新たな鶏たちが卵を産むまでもうしばらくお待ちください。



令和4年度 農業技術研修修了

離職を機に新たに農業を始めようとする方々を対象に、岡崎高等技術専門校の「愛知県雇用セーフティネット対策訓練農業技術研修科」として本校で行っている農業技術研修の閉講式が1月30日（月）に行われ、研修生24名が修了を迎えました。

令和4年5月10日に始まった研修は、真夏の猛暑日や風雨の日も休むことなく延べ155日間（合計930時間）にわたって行われてきました。

修了式に先立ち、1月13日には各グループで取り組んだ、ハクサイ、ダイコン等の露地野菜に関するプロジェクト活動の発表が行われ、研修生は農業の専門用語や栽培の知識をしっかりと習得して発表しました。さらに、1月27日には卒論発表会が開かれ、全員が今後の就農への決意や経営方針等について発表しました。

修了後は、独立自営就農する人、農業関連法人に就職する人など様々です。各地域の皆様の新たな仲間となりますので、今後とも御支援、御協力をよろしくお願いいたします。



研修を修了して(研修生から)



【山田誠さん】

野菜栽培の基礎知識から先進農家の見学、就農相談まで幅広く学ばせていただきました。研修を受ける前はトマト農家になることを考えていましたが、イチゴ農家を志すことにしました。就農相談で今まで考えてもいなかった作目を提示されたときは驚きましたが、今となっては新たな道を提示してくださったことに感謝しています。この研修で得た知識、人脈等全てがかけがえのない財産です。



【中野智美さん】

プロの栽培方法から土壌、農薬、法律、経理、経営と農業経営に必要なスキルを勉強することができて、様々な分野から集まった仲間と共に協力しながら行う作業は、大変ながらも楽しく、人脈も広がり、新規就農への自信ができました。土地を探しJAのナス部会にも入会して、春からはナス生産者として新規就農します。ここで学べて本当に良かったと思います。



【岩瀬由紀子さん】

家庭菜園とは全く異なり、費用対コストを考えて行う施肥や薬剤散布等、毎日が勉強でした。また同じ農家になる目標も持った仲間との交流も、研修期間中の楽しみの一つでした。

私は、自宅近くの農地を運良く借りることができ、現在はネギ部会への加入申請を行っています。これからは夏野菜が販売できるよう、圃場整備と土づくりから行っていきます。農業技術研修は、農業技術の知識習得だけではなく、人脈を築くことができる貴重な研修でした。



【柴田委千弘さん】

父の介護が必要になったため、会社を辞めて仕事（農業）と介護を両立できたらと考えて入校しました。先輩農家を訪問したり、先生方に相談したりしながら自分の生活スタイルに合う作物を8月には絞り込むことができました。

楽をして大きな収入を得ることはできませんが、コツコツ努力をしていけば何とかなると自信を持つことができました。

令和4年度 愛知農業次世代リーダー塾修了

2月8日（水）、令和4年度愛知農業次世代リーダー塾の経営計画発表会及び閉講式を開催し、13名が半年間、全12回の講座を修了しました。

12回の講座の前半では、専門家による講演により、財務管理、労務管理、マーケティング、組織活動などの農業経営に必要な知識を学びました。受講生は真剣に各講師の話聴き、知識を深めました。後半は、中小企業診断士から直接指導を受け、5年後を目標とした経営計画を作成しました。SWOT分析に始まり、グループ討議、個別面談などにより、経営計画の作成を進めました。

経営計画発表会では、受講生同志の質疑応答が活発に行われ、中身の濃い発表会となりました。



研修を修了して(研修生から)

秋山二允さん：経営計画作成は非常に大事だと気づきました。今後自分にとっていい経験となりました。

大嶽昌志さん：労務と税の知識が身につきました。他の生産者の考えから新たな発見がありました。

山田裕一さん：受講者全員の立場、規模の違いから様々な取り組み方が分かることが分かり、大変参考になりました。

倉内穂高さん：全体的に曖昧だった未来像が具体的に見えるようになりました。

渡辺竜次さん：経営目標のみならず人生目標についても深く意見を交わし合うことができ、本当に有意義な半年を終えることができました。

比嘉正道さん：孤独に感じるが多かったが、リーダー塾のおかげで仲間を強く意識することができて良かった。中長期目標を具体的に意識するきっかけとなりとても感謝しております。

平松 諭さん：経営計画を成文化できたことが財産です。

杉本泰祐さん：とてもモチベーション高く経営に向き合っている人に会えて、その人たちの前向きな考えを聞くことができた。今後の5年が有意義に使えると思いました。

宮瀬浩歳さん：今現在に満足していましたが、改めてもう少し目標を上げる気持ちになりました。

加藤大貴さん：他の人の経営計画を聴く機会があって良かった。

加藤亜紀さん：他の方と交流することができた。農業経営に関わる様々な方向から情報を得ることができました。

福岡正樹さん：ここに来なければ知り得ない情報もあり、大いに役立ちました。

田中秀樹さん：向上心のある仲間と出会えたことが何より良かったと思っています。経営の中で必須な事柄もたくさん学ぶことができました。

令和4年度ニューファーマーズ研修修了

令和5年2月24日（金）に令和4年度ニューファーマーズ研修の発表会と閉講式を開催し、20名が研修を無事に修了しました。発表会では今後の営農目標を発表し、研修生から就農に対する強い決意が感じられる素晴らしい内容でした。

研修生は、研修終了後、各地域で就農し農業者の皆様の新たな仲間となります。引き続き、御指導、御支援をよろしくお願いいたします。

なお、来年度もニューファーマーズ研修は引き続き開講予定です。令和5年度も意欲ある研修生が多数集まることを期待しております。



研修を修了して（研修生の声）

- 研修を通して農業基礎知識から農業に関わる全てを勉強できて良かった。仲間と共有できるのもありがたい。
- 自分の栽培品目以外の講義もあったので他品目での知見が広がった。また、労務管理や経理業務等、今まで経験が無かったが今後必要な業務であり各専門家の講義もあり非常に勉強になりました。
- 研修を受講して農業に関する基礎的な知識や先輩方の生の声を聞くことが出来て、大変ためになりました。今後は農大で得た知識を活かし、引き続き精進していきたいです。
- ニューファーマーズ研修に参加しなければ、同じ目標を持った人たちと出会うこともなかった。同期が出来たことが一番良かったです。
- 農業の基礎部分を学べたこと。学んでいなければ、就農に対して不安は少なかったと思います。無知のハズなので。知ったからこそ、色々な不安がわきますが、対応策を学んでいけばうまくいくと思う。
- 研修を通して農業技術の基礎から経営に関することまで新規就農に必要なことを一から学ぶことができました。
- 様々な作物の知識や農業経営に関する事など、新規就農に必要な事を幅広く学ぶことができて良かった。
- 新規就農するにあたって、農業簿記など経営についての基礎から学べたことが特に良かったです。
- 実績やノウハウのある農家さんと農大で、一から農業を学ぶことができ、新規就農への基礎を固められました。
- 私はイチゴ農家を目指していますが、イチゴだけではなく作物の育て方そのほか色々な勉強ができた事がスキルアップになりました。
- 校外学習として色々な農家さんの所に視察に行けたのが、とてもためになりました。
- 農業の必要な基礎知識・土づくりの技術など農大と研修先農家で学びました。また、研修者それぞれの考えも共有でき有意義でした。
- 即活用が可能な情報をわかりやすく提供いただけたので、非常に有効でした。

トピックス

愛知県高等学校農業教育研究会生産経営系(草花) 研修会が農業大学校で開催されました

1月31日（火）に令和4年度愛知県高等学校農業教育研究会の草花部門研修会が農業大学校で開催されました。当日は農業高校から10名と農業大学校から5名が参加して行われました。農大から切花及び鉢物栽培施設を巡回しながら説明し、質問を受けながら情報交換を行いました。花きに関する情報の他、卒業生、在校生の状況なども楽しく話ができ、「大変有意義な研修会であった」との声が聞かれました。次年度以降も開催予定で、開催内容について事前に協議を行うこととなりました。



施設内での情報交換

第5回進路セミナーを開催～面接の心得～

2月7日（火）、1年生を対象とした第5回進路セミナーを開催しました。

今回は、「面接の心得」と題して、ハローワーク刈谷からお借りしたDVDの視聴と関連資料から、面接時の三大質問（学生時代に力をいれたこと、自己PR、志望動機）のポイントや動作について事例を見ながら学びました。

面接を控えている学生も多いこともあり、真剣な表情で受講していました。

今後は希望者を対象に、面接本番を想定した「模擬面接会」なども計画し、学生の就職を支援していきます。

職場研修(鳥インフル、豚熱発生時の防疫演習)を実施

本校では、「豚熱等の特定家畜伝染病が発生した場合の学生・研修生等の行動指針」を定め、本校で豚熱等の特定家畜伝染病が発生した場合については、西三河地域防疫部会との連携体制のもと早期収束を図っていくこととしています。

2月17日（金）に職場研修を開催し、講師に中央家畜保健衛生所保健衛生課班長の兼子明美氏を招いて、特定家畜伝染病が発生した場合の防疫体制・方法について、お話をいただき、本校職員の役割と本校施設内の取り扱いを確認しました。



講師：中央家畜保健衛生所 兼子氏

令和4年度全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会で特別賞を受賞

2月7日（火）～8日（水）に令和4年度全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会が東京都で開催され、本校からプロジェクト発表の部で作物専攻2年生の門脇幹さんが代表として参加しました。

門脇さんは緊張の中、発表を行い、審査員からの質問にも的確に答えていました。

結果、見事に門脇さんは上位6名に入り、特別賞を受賞しました。発表内容は、豊橋稲 WCS 組合の課題を洗い出したうえでの施肥体系と収穫適期の検討を行うという内容であり、課題設定の背景に説得力があり、経営試算をしっかりと行っている点が高く評価されました。おめでとうございます。



特別賞受賞
2年生の門脇さん

第33回ヤンマー学生懸賞作文の部で銅賞ダブル受賞+奨励賞

2月10日（金）、第33回ヤンマー学生懸賞論文・作文の入選発表会がオンラインで行われ、本校から1年生の切花専攻 濱島蓮さんと果樹専攻 殿林誉也さんが入選しました。

濱島さんは『花の魅力』、殿林さんは『農業の私の今までとこれから』と題して「作文の部」に応募し、銅賞を受賞しました。

「作文の部」は、主に農業大学校や農業短期大学学生を対象としており、「農業を食農産業に発展させる」を主題として、今回は全国から446点の応募があり、入選はその上位13点（金賞1点、銀賞2点、銅賞10点）のみとなります。

また、上位13点に次ぐ奨励賞（15点）として、鉢物・緑花木専攻の坂元楓華さんと露地野菜専攻の浅井李咲さんが受賞しました。

このたびの受賞を祝して、校内表彰と記念撮影を2月22日（火）に校長室で行いました。

4人とも表彰された実感がわいたのか、とてもうれしそうでした。

本当におめでとうございます。



左から校長、浅井さん(奨励賞)、濱島さん(銅賞)、殿林さん(銅賞)、坂元さん(奨励賞)

卒業生代表による愛知県農業水産局表敬訪問

2月16日（木）、この3月に農業大学校農学科を卒業する74名を代表して、4名の学生が愛知県農業水産局を表敬訪問しました。

学生4名から、農業水産局長、農林水産推進監、技監、農政部長に対して、2年間お世話になったお礼を述べ、農大で過ごした2年間の感想と今後の進路、将来の夢を語りました。

農業水産局長から、農業の道に進むきっかけと聞かれ、「中学生の時に、兄、姉が継がないと聞き、自分がやろうと思った」など、学生らは思い思いに語り、和やかな会話のあと、農大で作った農産物を贈呈しました。



農業水産局長始め幹部職員（前列4名）と学生代表・校長（後列）

生産高度化研修「ジネンジョの生産安定」を開催

2月14日（火）、愛知県じねんじょ主産地協議会と共催で「ジネンジョの生産安定」をテーマに研修を開催しました。県内各地から84名の生産者及び関係機関の参加がありました（新型コロナウイルス感染拡大のため、愛知県じねんじょ主産地協議会から推薦された方）。

研修会では、①山間農業研究所の甲村瞭次技師より「ジネンジョの研究成果の報告」と「ジネンジョの生産安定マニュアルについて」、②JA あいち経済連の足立太輔氏より「ジネンジョ専用肥料に関する情報提供」、③農業総合試験場の大野栄子主任専門員より「事例発表」、④愛知県園芸農産課の菅野淳夫主査より「園芸優良種苗生産供給体制について」、⑤愛知県じねんじょ主産地協議会事務局の渡会達朗氏と農業総合試験場の大野栄子主任専門員より「地域増殖ほの運営及び栽培管理に関わる調査結果」の各講演がありました。

そして最後に、試験場の大野主任専門員を座長に、総合質疑が行われました。活発な質疑となり、参加者のジネンジョ栽培に対する熱意を感じることができました。また、研修後のアンケートにおいても、「ためになった」「もっと事例を紹介してほしい」などの回答をいただき、有意義な研修会となりました。

